

平成30年度 学力向上アクションプラン

B票

園田小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
○全国調査の結果からみられる課題 (1)各教科の状況 ・国語:文章の内容を理解し、目的や意図に応じ必要な内容を整理して書くことや、話の内容を整理して聞き、話し合うこと ・算数:解答を導き出す過程を言葉や式を用いて説明することや、既習事項の定着、またそれを活用する力。 (2)質問紙調査 ・自分で計画を立てて家庭学習をする力。 ○保護者アンケートからみられる課題 ・「自ら宿題に取り組む等、家庭での学習習慣が身に付いている」の項目について、肯定的な回答割合が80%に達していない。	○講師を招聘して授業研究することにより、授業力の向上を図る。【講師招聘支援を活用】 ○言語活動の充実のため、音読などを中心とした授業づくりに取り組む【講師招聘支援を活用】 ○探究する課題の設定や自分の考えを発表する機会の確保、対話的な活動などを取り入れ、主体的・協働的な学習活動を実践する授業に取り組む。	○個別の学習課題に対応したきめ細やかな指導のために、複数指導による支援を行う。【授業補助支援を活用】 ○個々の学習状況に応じた指導の充実を図る。【新学習システムの活用】 ○個々の学力に応じた学習支援を行うことにより、学習習慣の定着を図る。(放課後等学習支援を活用) ○家庭学習計画表等の活用により、自発的・自主的な学習態度の育成を図る。【学力定着支援を活用】 ○読書力の育成を図る。(読書タイム、うち読等)【地域人材活用支援を活用】	○毎日5校時開始前に帯タイムとして「基礎基本の時間」を設定し、漢字や計算などの学習の取り組みの内容について、学年などで統一し、同年同一内容とするなど、充実・徹底を図る。 ○週4日、朝の10分間読書タイムを確保し、読書量を増やすとともに、本に親しむ態度を育て、言語力、読解力の向上に努める。 ○放課後の個別指導の時間を月2回以上設ける。	○全国学力・学習状況調査 (1)各教科の状況 ・知識Aの平均正答率(全国平均との差-5ポイント以内) ・活用Bの平均正答率(全国平均との差-5ポイント以内) (2)質問紙調査(当てはまる+まあ当てはまる等) ・「授業がよくわかる」85%以上 ・家庭学習時間1時間以上65% ○保護者アンケート ・「自ら宿題に取り組む等、家庭での学習習慣が身に付いている」80%以上 ○児童一人当たりの読書量、年間60冊以上

校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
○夏季合同研修会の実施 ○6年生による中学校の授業体験	(1)講師招聘支援	○講師招聘(迫手門学院小学校 多賀一郎先生 7回)	○学力向上アクションプランの明示 ○「うち読」の実施による読書力の向上 ○学校・学年便り、ホームページ等の活用による学習習慣定着に向けた取り組み状況の発信および啓発 ○学力調査結果等の公表
	(2)先進校視察支援		
	(3)授業補助支援	○国語、算数における同室複数指導 6h×25週	
	(4)放課後等学習支援	○放課後学習 中・高学年 週1×25週 ○夏季休業期間 2h×7回	
	(5)学力定着支援	○学習支援に係るインク、用紙代など	
	(6)地域人材活用支援	○読み聞かせボランティア 22人分	
	(7)その他		